

# 各科目概要

★「大学」欄は科目の提供大学・機関を示し、略称「工、府、医、機」は、「工」：京都工芸繊維大学、「府」：京都府立大学、「医」：京都府立医科大学、「機」：京都三大学教養教育研究・推進機構を示します。

★授業目的区分（○は該当するもの、◎は特に強調するもの）

- A：人文・社会・自然の諸分野から、各大学の教育課程の編成方針を踏まえ学生自ら科目を選択し学ぶことにより、幅広い知識と総合的な判断力に基づく教養を培う。
- B：世界の人々の多様な生き方を感じ、人としての豊かな感性や倫理観を高める。
- C：社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟する。また、多様な価値観を持つ人材が集まることにより新たな価値創造に向けた議論に習熟する。

★文理融合科目（○は該当するもの、◎は特に強調するもの）

文系学問と理系学問の両方を横断的に学ぶ科目、またそれにより学修の幅を広げることをねらいとする科目

## 【京都学の特徴】

「京都で学びたい」、「京都を学びたい」と思い、伝統のある三大学への進学を希望した学生も多いことでしょう。京都三大学教養教育研究・推進機構では、京都の地域的、歴史的、文化的特色を生かした、「京都学」を開講します。三大学にまたがる学問分野の広さと、各大学の専門性の強みを生かした多様な京都学が提供されます。

## 【リベラルアーツ・ゼミナールの特色】

リベラルアーツ・ゼミナールは、教育目標に掲げられた「C：社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟すること」に重点を置きます。リベラルアーツ・ゼミナールでは、多様な価値観を持ち志向などが異なる仲間と交流し、様々な問題に関心を持ち、議論する力を高めることを狙いとします。授業は、1クラス30名を上限に、少人数で実施します。

## ■人間と文化

### 《人間と歴史》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理融合科目	授業目的区分		
							A	B	C
哲学	工	藤田 尚志	後	<p>「哲学って何?」とたずねられると、きちんと答えるのは実は難しいのですが（実際、この問いへの哲学者たちの答えはさまざまです）、さしあたっては、人間や社会、あるいはこの世界のあり方について根本的に思考する営みであると言えるでしょう。</p> <p>この講義では、私たちの生きる現代において営まれてきた哲学、あるいは現代に強いインパクトを与えてきた哲学を取り上げて、入門的な概説を行います。具体的には、19世紀から20世紀にかけて主にフランスやドイツで展開してきた思想の諸潮流——生の哲学、実存主義、現象学、構造主義、精神分析、ポスト構造主義——について、主要な哲学者・思想家の考えを扱うことで、現代における哲学への理解を深めていきます。</p>	<p>「哲学」に触れるのははじめて、という人も多いと思いますが、前提知識は特に求めないので、どうぞお気軽に。今後、哲学に限らず、広く人文系の本を読むための基礎教養も身に付くと思います。他の人が気に留めないことにもつついこだわったり、あれこれ考えがちな人には、特におすすめの講義かもしれません。</p>		○	○	
比較宗教学	工	樽田 勇樹	前	<p>宗教と聞くと、自分とは別世界のことと思われるかもしれませんが、しかし、この名で呼ばれるさまざまな伝統や実践が根ざしている現実そのものは、私たち自身も、私たち自身の仕方です。比較宗教学とは、世界の多様な生のあり方において現実がどのように生きられているかを問う中で、翻って、おのが生と社会のあり方をも同時に問題にする学問にほかなりません。この授業では、とくにユダヤ・キリスト教・イスラームの成り立ちと、その宗教思想に焦点をあて、基本的なテキストを読みます。私たち自身や私たちの社会のあり方は、そこからどのように照らし出され、また問題になってくるのでしょうか。15回の講義を通して、考えていきます。</p>	<p>「宗教」は現代でも世界の多くの人々の生活をかたちづくる力をもちつづけています。よく見れば、私たち自身の何気ない習慣の中にさえ、「宗教」は浸透しているとも言えます。このことは私たちに、どのような問いを投げかけているのでしょうか。この授業が、その問いの数々をみなさん自身が考えるきっかけになればと思います。</p>		○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理 融合 科目	授業目的区分		
							A	B	C
宗教と文化	医	竹貴 友佳子	後	日本の生活文化において仏教の影響をうけているものは少なくありません。本講義では、日本の仏教の展開、文化の発展を歴史的な視点から概観します。日本の中世から近世初頭にかけての仏教、特に中世に大きく展開・発展する禅宗に注目し、日本の中世社会の中でどのように禅宗が展開・発展したのか、近世初頭までの禅宗の歴史的展開を概観します。また日本の文化で禅宗の影響をうけたものは少なくないことから禅宗と文化の歴史を考察します。	現代でも人々に親しまれ、外国にも日本の伝統文化として知られている日本文化の多くは、仏教の影響をうけているものが少なくありません。日本の仏教・文化を歴史的な視点で概観するなかで、日本の仏教・文化（文化財）など幅広く興味関心をもち、理解を深め、幅広い視野、知識、教養の糧としてもらえればと思います。		○	○	
日本史	工	浅井 雅	後	高校までに学習してきた日本史は、主に「為政者の歴史」である。もちろん、「為政者の歴史」も事実であるが、それだけが真実ではない。 本科目では、歴史的事項を政治・経済・文化・思想・人物など様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに、新たな見方を提供したい。 また、近年、日本社会では少子高齢化、グローバル化、高度情報化や「想定外」の自然災害が起こっているが、受講生には、先人たちの経験の追体験を元に、未知なる社会への想像力を育むものとして歴史学を学んでもらい、現代社会と比較・相対化し、「想定外」を「想定内」として対処できる能力を身につけて欲しい。	高校で日本史を勉強してこなかった学生の受講も歓迎する。 歴史学は「暗記」の学問ではなく、発見の連続である。 歴史学を学ぶことによって、視野を広げ、多様な価値観を理解し、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力、課題を発見する力、問題を解決する力を養ってもらいたい。		○		
東西文化交流史	工	旗手 暉	後	ユーラシア大陸の諸地域で誕生し、展開していった様々な文化について、いくつかのテーマに分けて学んでいきます。その際、特に他地域への伝播・交流・変容・融合に重点を置いて、学んでいきます。	世界中、どの地域の歴史であってもそれ自体で完結するという事はまずありません。常にほかの地域からの影響を受け、場合によっては影響を与えてきてきました。 とりわけユーラシア大陸では、それが顕著に見られます。本講義では、いくつかのテーマごとに分けて、伝播・交流・変容・融合の様相を、学生のみなさんと一緒に時代を追ってよみ解いていきたいと思います。		◎	○	
アジアの歴史と文化	府	井上 直樹	前	「アジアの史的動向と日本の歴史・文化」 日本は古代から現在にいたるまで、朝鮮半島や中国大陸で興亡した諸王朝・国家と交流し、たえずそれら諸王朝・諸国家から直接的・間接的な影響を受けてきた。そのため、それら地域の史的動向を学ぶことは、日本の歴史・文化を巨視的な視点から理解するためにも必要不可欠となる。 そこで、本講義では、日本史上の重要な事件・出来事を、当該期の中国大陸・朝鮮半島の動向、日本との関係などから論述し、東アジアのなかにおける日本史の史的動向を明らかにすることを目標とする。	アジアの歴史と文化を理解することは、現代世界、さらにはそれとも直接的・間接的に影響を受けた日本の史的動向を理解する上できわめて重要です。そこで、本講義では日本史上の有名な事件などをとりあげ、当該期のアジアの史的動向を論じます。なお、講義ではプリントを配布し、暗記を求めることはしません。むしろ、日本史上の出来事をアジア史の視点から取り上げることによって、受講生のみなさんと、日本人としてアジアの歴史と文化を学ぶことの意義や楽しさをわかちあうことができると考えています。		○	○	
ヨーロッパの歴史と文化	府	阿部 拓児 渡邊 伸 川分 圭子	後	・古代から近代までの欧米世界の歴史を講義する。ヨーロッパだけでなく中近東やアメリカ世界も対象とし、政治・経済・宗教・文化・社会の諸側面を取り上げる。 ・現代社会の歴史的・文化的基礎を理解することを目標とし、現代の諸問題を多角的に考える力の修得をめざす。 ・高校で世界史Bを受講しなかった学生にも学習しやすい内容・レベルをめざすが、現在の日本人による研究がどの程度進められているかなどについても論及する。	ヨーロッパの歴史と文化は、現代世界を理解する上で不可欠の知識です。また、数十年、百年、数百年といった時間がたつと社会やもの考え方はどのように変わるのかという長い時間の感覚を持つことも、生きていく上でとても大切です。今の日本の価値観を絶対のものとして、昔や他の地域の価値観を理解し将来をも見越す力を持つためにも、歴史を学びましょう。		◎	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 融 合 科 目	授業目的区分		
							A	B	C
科学技術の人間学	工	秋富 克哉	後	人間にとって技術とは何か。技術を必要とする人間とは何か。相互に関連し合うこれら二つの間を考察することが、授業の出発点であり、かつ目標点でもある。授業では、「技術の人間学」という講義名が何を意味するのかを述べた後、今日のテクノロジー（科学技術）の源流となった西洋文明の源流に遡り、歴史上のトピックをもとに、人間が技術をどのように受け止めてきたか、その足跡を紹介する。続いて、現代世界に視点を移し、技術が引き起こしてきた諸問題を取り上げ、今日におけるテクノロジーと人間の関係を考察していく。過去への眼差しと現在への眼差しを通じ、さらに将来への眼差しを獲得することを目指す。	諸君は、技術ということは何を考えるだろうか。道具を使って環境に働きかけるところから最先端のテクノロジーにいたるまで、技術の歴史は人間の歴史そのものであると言ってよい。歴史を通して発展してきた技術がさまざまな領域で問題を引き起こしている現在、技術と人間の関わりをしっかりと考えてみたい。	◎	◎	○	○

### 《文化・芸術》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 融 合 科 目	授業目的区分		
							A	B	C
ラテン語	医	松本 加奈子	後	ラテン語の初歩を学びます。古典語ではありませんが、現在でもa.m.(午前)やp.s.(追伸)といった略語、自動車などの機械類の製品名で目している語も少なくないでしょうし、何よりも、ヨーロッパ諸言語のルーツを知ることで、英語を初めとする西欧諸言語の習得に役立つだけではなく、アルファベットの羅列に見えていた既習の英単語までもが深みと広がりをもって見えてくる興味深い言語です。 ほぼ全員が初めて学ぶ言語ですので、基礎から学んでいく予定ですが、文法や語彙の単なる丸暗記ではなく、長い時を経て人々が培ってきた文化の一つとして言語の成り立ちを鑑賞することで、言葉そのものに対する興味と知識を増すきっかけとなればと思います。	医学、薬学、化学元素、植物名、美術、宗教、文学etc。(ちなみにetc.もラテン語です)と、理系文系を問わず様々な学術用語の基礎となっているラテン語を、様々な専攻分野の皆さんが集まって学習できる機会を楽しみにしています。		○	○	
西洋文化論	工	山下 太郎	後	古今東西という言葉がある。我々は東洋の今を生きている。そんな我々にとって一番なじみの少ないのが西洋の古典文化ではないだろうか。当時の人間が残した言葉は、今も欧米人の心の琴線に触れる価値を持つ。では、我々はどう感じ、どう思うだろう。異文化はおのが文化を照らし出す鏡である。 西洋古典文化を代表する名言を手がかりにして、今を生きる我々にとって価値ある指針とは何かを探りたい。	予備知識は前提としない。強い言葉ればギリシア神話に関心があれば願う。心の目を大きく開けて、ピンとくる「何か」との出会いを楽しみにして欲しい。		○		○
日本近現代文学	工	高木 彬	後	本講義のテーマは「文学と空間」である。谷崎潤一郎の隠れ家、稲垣足穂の機械都市、安部公房の箱、村上春樹のヴォイド…。文学作品にはさまざまな空間が描かれてきた。それらはどのような特質を有しているのだろうか。また、そうした文学のなかの空間は、現実の空間とどのように関係しているのだろうか。いくつかの理論や、文学以外の表象ジャンルなども参照しながら探求したい。	文学を、空間という観点から読み解く。それは、これまでとは一味違ったかたちで文学を考えるきっかけになるかもしれません。またそれは、文学を手がかりにして空間を考えることにもつながります。よく知っている(はずの)日常の空間を、新しい目で見直すことになるでしょう。「日本近現代文学」という講義名ではありますが、文学のトリビアルな知識の詰め込みに終始するのではなく、文学「から」考えることの愉しみをみなさんと共有できればと思っています。	○	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 融 合 科 目	授業目的区分		
							A	B	C
西洋文学論	工	山下 大吾	前	<p>ホメーロスの『イーリアス』『オデュッセイア』という二大叙事詩に端を発するヨーロッパ文学。それは今日まで、その最高の模範に戦いを挑むかの様に、各時代各地域の様相を彩り、映し出しながらも、同時に普遍的価値をも併せ持つ古典的な作品を数多く生み出しており、21世紀の現代日本に生きる我々をも魅了してやまない。</p> <p>本講義では、ギリシア・ラテンの西洋古典に由来する汎ヨーロッパ的な統一性、並びに聖書に基づくテーマに留意しつつ、その主要作品の内容、およびそれらに備わる特徴や創造的側面を概観する。合わせて漱石や鷗外、二葉亭など、我が国の文豪の残した作品や批評、翻訳などに見られるヨーロッパ文学に関する言葉を手掛かりとした紹介を試みたい。</p>	<p>西洋各国の文学作品を根底から支えている philology「ことばに対する愛」は、洋の東西を越え、人間の有する本源的な力と言ってよいでしょう。その力を皆さんと共有し、再確認する場になればと考えています。意欲的な学生の参加を期待しています。</p>		◎	○	
美と芸術	工	船木 理悠	前	<p>「美」や「芸術」という言葉を今日の私たちは自明のものとして日常的に使っています。一方で、社会や技術の変化に伴い、美や芸術に関する伝統的な観念は、自明のものとは言いにくい場合も出てきているのが現状です。この原因として、私たちの考え方が西洋の「近代」という特定の時代の影響を強く受けているため、現代の状況との間にズレが生じているということが指摘されています。</p> <p>本講義では、私たちが自明であると思っている観念を再考する第一歩として、美や芸術に関する伝統的な考え方の歴史を振り返り、実際の作品や当時の社会的な状況なども視野に入れながら紹介していきます。</p>	<p>「近代」に特有の考え方は現代の文化消費の中に深く入り込んでいますが、多くの場合私たちはそのことに無自覚です。「当たり前」と思っていることに対して疑問を持ち、現代の状況を踏まえて、自分の力で考えるということと共に目指したいと思っています。</p>		◎	○	○
日本近代精神史	工	藤田 尚志	前	<p>いずれも京都にゆかりの深い二人の哲学者・西田幾多郎(1870-1945)と丸亀周造(1888-1941)は、互いに身近な場所で仕事をし、敬意をもって触れ合いながらも、思想的にはとくに表立って交わることなく、あたかも知音がただ目礼だけ交わすにすれ違ふように相次いで没した。本講座では、この二人の思想のうちに、とりわけ、初期の彼らが人と人との関わりをどのように思い描いたかを手がかりとしつつ、近代の日本が西洋の文化・文明に対し、どのような理論と理想をもって立ち上がったかを学びたい。</p>	<p>きちんとものを考えるということは、いつでも、徹底した(たとえば時代を超えた)普遍性と抜きがたい個性(たとえば時代や文化や個人)の融合である。その消息を、受講生のみなさんに少しでも伝えられたらと思っている。</p>		○	○	
フランス語圏の文化とジャポニスム(2回生以上)	工	吉川 順子	前(午前)	<p>日本とヨーロッパの交流は、宣教師が渡来した16世紀に始まり、鎖国を経て、本格的には19世紀半ばに日本が開国したことで急速に発展した。なかでも文化面では、フランスを始めとする欧米諸国で、日本の美術工芸品などに影響を受けた「ジャポニスム」という芸術運動が巻き起こり、美術・音楽・文学・服飾といった様々な分野に広がった。</p> <p>本講義では、このジャポニスムの多様な事例を、具体的に作品を鑑賞・分析しながら学ぶ。また、その背景にあったフランス語圏の文化芸術に関する知識も身につけ、同時に、比較の視点から日本文化の特徴や価値も振り返る。</p> <p>※2回生以上を対象</p>	<p>ジャポニスムを学ぶ中で、現代の私たちにも通じる、自国の伝統と異文化摂取の間に生まれる新たな文化や、文化の循環、異文化交流に纏わる諸問題についても考察を深めましょう。また、個々の関心に基づき、日本の様々な文化が世界でどのように知られてきたか、今どのように理解されているかも調べ、共有したいと思います。</p>		○	○	
映画で学ぶ英語と文化(3回生以上)	府	西谷 茉莉子	後(午前)	<p>・アイルランドを舞台とした、あるいはアイルランドがテーマに関わる映画を鑑賞し、英語の語彙の知識を身に付けるとともに、リスニングの力を向上させる。また、関連する英語の文書(映画のレビューや背景知識に関するエッセイ、原作となった小説など)の読解を通して、リーディングの力も涵養する。</p> <p>・本講義で扱う予定の映画のテーマは、移民、恋愛、歴史的事件、社会問題、紛争、アイルランド古来の伝説を扱ったものなど、多岐にわたる。映画に関する授業内外でのアクティビティ、および期末レポートの作成を通じて、アイルランドの社会的・文化的背景を学んでほしい。</p> <p>※3回生以上を対象</p>	<p>受講者の皆さんにとって、アイルランドはあまり馴染みのない国かもしれませんが。民間伝承の息づく「妖精の国」という牧歌的なイメージで知られるこの国には、何世紀にもわたってイギリスの支配を受けた負の歴史の爪痕が未だに見られます。本講義は、いわばアイルランド入門であり、複数の映画の紹介を通して、アイルランドの様々な側面を学ぶヒントを示したいと考えています。特に興味を持った映画については、授業外で鑑賞したり、関連する背景を自主的に調べたりして、テーマについての理解を深めていってください。</p>			◎	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 合 目	授業目的区分		
							A	B	C
映画で学ぶドイツ語と文化 (3回生以上)	府	ポルドゥニャク エドワルド	前 (前期)	<p>本講義においては、20世紀ドイツ表現主義映画を代表する映画監督である、フリッツ・ラング(1890-1876)による二本の映画作品(『メトロポリス』『M』)を主な教材とします。また、参考資料として適宜他のドイツ表現主義映画を用います。</p> <p>20世紀前半という社会や政治が激しく動いた時代において、ラングが大都市を舞台にした映画を撮影することで、何を表現しようとしたかを分析したいと思います。その際、社会主義やファシズムなどといった、当時の時代背景を踏まえつつ映画を解釈していきます。</p> <p>以上のような分析を通じて、映像作品におけるドイツ語の表現に慣れます。また、20世紀前半のドイツがどのような政治的状态にあったかを学びます。</p> <p>※3回生以上を対象</p>	<p>ラングが撮影した映画は、様々な政治的イデオロギーが衝突し合う、混乱したドイツ国家の状況を反映したものでもありました。あらゆる芸術作品はそれが創られた時代の空気のある程度反映していますが、特にラングの映画はその傾向が強いものとなっています。本講義を通して、受講者の皆様が映画を通して過去を理解する技術を身に付けられれば幸いです。</p>			○	
医療人類学	医	竹田 響	前	<p>本講義では、人間が生まれ、そして死ぬという一連のプロセスの中で、各々が自己ならびに他者の身体をどのように気遣い、また考えるのかについて、「医療人類学」という視点を基に共に考えていく。</p> <p>文化人類学の一領域とされる医療人類学では、異なる文化や社会的背景を有する人びとが、病気の原因や治療、看護、ケアといった事象についてどのように考え、また向き合っているのかについて、事例を基に考察してきた。人はいかに「病」に向き合い、生活しているのだろうか。本講義では、これまで議論されてきた医療人類学的観点を紹介しながら、「医学的」正しさだけでは時に捉えきれない、人間の生と葛藤、そしてその捉え方について学ぶ。</p>	<p>「生・老・病・死」は、社会に生きるすべての人間に関わる重要な事象です。本講義は、将来医療現場に従事することを希望している方はもちろん、他者の暮らしの中にある文化や社会に関心を抱いている方、加えて「医療人類学／文化人類学って、何…?」と感じた方の受講も歓迎します。</p> <p>病院で医師の診察を受けること、薬を飲むことだけが「治療」なのではありません。医療やケアを取り巻くさまざまな事例を通して、一枚岩ではない「私たち」の暮らしについて、共に考えていきたいと思います。</p>		○	○	○
認知心理学	医	村上 高至	前	<p>我々は日常生活において、外界(環境)から情報を取り入れて様々な意思決定を行っています。しかし、たとえば感覚器官(五感)から取り入れられる情報でも、その情報量は膨大であり、全てを処理することはできません。つまり、我々は外界の情報をそのまま活用しているのではなく、選択的に活用しており、そこには一定の傾向(特性)があります。</p> <p>本講義は科学的知見に基づき近代の心理学の観点から、これらの仕組みについて紹介します。対象となる範囲は、知覚などのより環境に近い領域から、記憶や意思決定などの高次認知機能までを幅広く概観します。また、近代心理学は科学的知見に基づいた学問ですので、これらの検証方法についても紹介していきます。</p>	<p>心理学は世間一般で考えられているイメージと実際が大きく乖離している学問分野のひとつです。一般的に(メディアなどで)紹介されている内容は、応用的に一般受けする部分のみを取り上げていることもあります。皆さんには基礎的な内容を学んでいただくことで、基礎的な研究がどのように応用されていくかを実感し、考えていただきたいと思います。</p>	○	○		

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 合 目	授業目的区分		
							A	B	C
京都の歴史Ⅰ	府	横内 裕人 ほか	前	<p>原始・古代から中世に至る京都の歴史を概観し、都がこの地に置かれるまでと、その後の展開過程について述べる。</p> <p>取り上げる時代は現代からは遠いけれども、今日の京都が形成される基盤を考えることは重要である。京都盆地がどのような地域的特色をもっているのか、そこがいかにして首都となったか、あるいは、そこで展開した政治や社会、文化の特徴はどのようなものか、具体的な事例をもとに論じる。</p> <p>3人の教員が歴史学(文献学)や考古学の立場からリレー式で担当する。</p>	<p>この授業では、中世までの京都に関する諸事象のなかから、重要と思われる事柄の正確な理解をめざしますが、個別的知識の寄せ集めに終わらせないようにします。</p> <p>それぞれの時代の京都の歴史的特徴をどのように捉えればよいが、一人一人が考えてほしいと思います。</p>		○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 合 目	授業目的区分		
							A	B	C
京都の歴史Ⅱ	府	藤本 仁文 ほか	後	「都市京都の展開」近世・近代京都の、都市としての展開をさまざまな角度から考察し、現代京都の特質を歴史的に理解する。	近世から現代にいたる京都の歴史をまんべんなく扱うのではなく、対象となる時代の京都を規定している要素にポイントを絞って解説していきます。時の権力・権威と都市京都がどのように結びついていたのか、といった観点から考察を深めてほしいと思います。		○	○	
京都の文学Ⅰ	府	大塚 誠也	前	『源氏物語』の女君たちの人生を通じて、平安貴族の価値観や活動空間を学ぶ。平安貴族の世界はすなわち平安京であり、その文化文芸と地理はさまざまな場面で重なり合う。例えば光源氏がヒロインを見初めたのは「北山」だが、なぜ京内でなかったのか。平安京という空間を意識しながら、作品理解を進めたい。	平安貴族のものの見方・考え方は、現代人と驚くほど違うことがあります。異文化理解という姿勢でも『源氏物語』に接してほしいですし、そこから現代人の無意識的な常識を再考する機会を持ってほしいです。		○	○	
京都の文学Ⅱ	府	本井 牧子	後	京都の霊地・聖地まつわる説話伝承をよむ。主に宗教的な視点からその背景をかんがえることにより、聖地・霊地のイメージ形成に説話伝承が果たした役割を跡づける。取り上げる作品は仏教説話を中心となるが、物語や芸能といった隣接分野にも目配りする。	授業の中で古典作品や関連書籍を紹介しますので、できる限りそれらに親しんでください。また、作品の舞台となっている場所や、関連する博物館展示などに実際に足を運ぶなど、地の利を活用しながら興味関心を広げてほしいと思います。		○	○	
京の意匠	工	山本 史 下出 茉莉	後	京都の意匠（デザイン）を生み出した環境とはどのようなものだったのだろうか。平安京以来の都で培われてきた意匠について考えてみたい。 (1)「都」の意匠：京の自然と都市の景観 (2)「聖」の意匠：仏と神の空間 (3)「技」の意匠：飾りと工芸の技術 (4)「芸」の意匠：座と芸能の空間 (5)「衣」の意匠：染織・装束の図案 (6)「食」の意匠：茶礼・菓子・器の構造 (7)「住」の意匠：室礼の諸相	古くからの都である京都には今でもこの土地が歩んできた歴史の記憶が濃厚に残っています。みなさんが学びの場として選んだ京都において、身近な生活のなかに織り込まれた意匠（デザイン）の奥深さについて考えてもらおうきっかけとなればと思います。		○	○	○
英語で京都 (3回生以上)	府	山口 エレノア	後 (午前)	概要：京都府立京都学・歴史館の「記憶アーカイブ」の資料を紹介する日本語ウェブサイト「資料ガイド」の内容を英訳します。歴史館の協力を得て、資料を閲覧します。  ※3回生以上対象。	Being able to use the Rekisaikan's great sources, in this class you will learn how to talk about Kyoto in-depth, going beyond the well-known aspects of Kyoto to tell the deeper, little-known stories. 京都について英語で発信する作業に取り組みましょう。			◎	○
資料で京都 (リベラルアーツ・ ゼミナール)	機	藤本 仁文 ほか	集中・ 夏	リレー講義・ゼミにより、京都学・歴史館所蔵の古典籍・歴史資料・絵図・指図・行政文書などを使用しながら、その扱い方や活用法について学ぶ。 目標 京都学・歴史館所蔵の古典籍・歴史資料と、講師の専門的知識・経験を活かして、少人数でのアクティブラーニングを行う。受講者が多様な資料とその活用法について知り、実見・解説することによって、資料価値を実感し、学びの地平を広げることを目指す。	歴史館所蔵の古典籍・歴史資料を、専門家ならではの着眼点や切り口で見て触れて学びます。実物を用いながら文学・歴史・行政・建築学など多角的な視点で学び、知識の総合化・体系化を目指します。			○	○
京都の文化と 文化財	機	宗田 好史 澤田 美恵子 平井 俊行	後	京都には、長い歴史と自然との共生、内外との交流により、日本を代表する文化が形成されるとともに、優れた芸術や伝統工芸、伝統産業が生み出され、今も世界中の人々を魅了しています。 また、日本文化への世界的な関心が高まり、グローバル化が進行する中で、私たち日本人自身が自らのアイデンティティとなる日本文化の考え方や価値を十分理解することを求められています。 この授業では、京都の文化財や伝統文化、生活文化、和食、伝統工芸・伝統産業に携わる方々をゲストスピーカーとして招き、その根底に息づく人を思いやり尊重する心と自然との共生などの精神性や、保存・継承などの様々な課題について学ぶとともに、その課題解決のための方策について考えていきます。	京都府内には、国宝や重要文化財などの多くの文化財や茶道や華道、和食などの伝統文化、陶芸や染織などの優れた伝統工芸・伝統産業があり、多くの大学や個性ある企業が集まり、国内外から多くの観光客が訪れるなど、京都のブランド力の源泉となっています。 この講義を通じて、学生の皆さんが京都の文化財や伝統文化などの価値を再認識するとともに、その根底にある自然との共生やおもてなしの心など、これからの社会で求められる考え方を学ぶ契機になればと考えています。		○	○	

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理融合科目	授業目的区分			
							A	B	C	
現代イスラム世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	黒田 賢治	集中・夏	世界三大宗教の中でイスラーム（イスラム教）は、アジア・アフリカ諸国の人口増加を背景にしながら急激に信徒数を増やし、存在感を強めている。日本でも近年特に東南アジア出身者などのムスリムと直接接触する機会が増加し、今後さらにその場面が増えることが予想される。しかし歴史的に日本社会で馴染みの薄い宗教であるうえ、イスラーム過激派によるテロ等の発生状況も加わり、イスラームに対する誤解も強化されてきた。本講義では、基礎的なイスラームに関する知識に加え、中東を中心とした世界に暮らすムスリムの営みから、イスラームについて学んでいく。	今後、ムスリムとのつきあいの機会は必ず増えます。イスラームや異文化理解に興味のある人だけでなく、専門から遠く事情に疎い学生諸氏の積極的な受講を歓迎します。学部時代こそ、多角的な視点に親しみ、解が一つでない諸問題の議論に習熟する好機です。講義と相手の意見を汲みながら行う建設的なディスカッションを通して世界を見る力を鍛えてみませんか。			◎	○	
感性の実践哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	桑子 敏雄	集中・夏	環境からの刺激を受け止め、解釈し、さらに環境に創造的に作用する能力を「感性」と捉えることができるとすれば、京都という地域空間の構造と履歴には、この地に生きた人々の感性的経験が蓄積されていると考えることができる。本講義では、空間の構造・空間の履歴・人びとの関心・懸念を総合的に捉える「ふるさと見分け」の方法によって、京都の地域空間を実践的に捉え、その感性的価値を考えてみたい。	日ごろ見馴れた風景のなかに自己の存在と自己の生が営まれる環境との関係を見出すための知的なトレーニングです。学生諸君には楽しみながら、新たな知の発見を経験していただきたいと思っています。				○	○
資料で京都 (リベラルアーツ・ゼミナール) (再掲)	機	藤本 仁文 ほか	集中・夏	※ 科目の概要と学生へのメッセージについては、科目群「人間と文化」の「京都学」を参照のこと。	科目群「人間と文化」の「京都学」を参照のこと。				○	○
現代正義論 (リベラルアーツ・ゼミナール)	医	瀬戸山 晃一 ほか	後	現実社会には、様々な不平等や格差、差別や不正義がみられるが、それらをいかなる手段で是正し平等を実現すべきなのか？自由を追求すると格差等が広がる場合が多い。「平等」といってもスタートか結果か機会か運の平等かなど、何の平等を追求すべきなのか？正義（Justice）とは公正（フェアネス）を意味し、その実現には様々な構想が企てられ、功利主義、リベラリズム、リバタリアニズム、共同体主義、優先主義、十分主義など、多様な理論アプローチが具体的な問題をめぐって激しい論争を繰り広げている。本ゼミナールでは、能力主義の問題性、入試の公平性、スポーツ競技のドーピング問題、医療格差などの現代社会の諸問題をグループディスカッションにより主体的に考えます。受講生のアクティブラーニングと生きた教養・リベラルアーツの涵養を目指します。	正義の女神像は、目隠しをして剣と天秤を手に行っていることが多い。正義の実現には公平性と執行権力が必要です。本ゼミナールは、不平等や格差や差別に関する現実の問題を取り上げ、それを解決・是正する処方箋について現代正義論の主義や理論から考えます。多様な学部学科の受講生からなるグループ・ディスカッションやプレゼンを取り入れた文理融合的な参加型授業です。ディスカッションが苦手な学生の参加も大歓迎です。	○	○	○	◎	

■人間と社会

《社会科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理融合科目	授業目的区分				
							A	B	C		
社会学 I	府	田島 知之	前	社会学は、社会が大きく変化する時代に、そのありようを理解するところのなかから成立してきた学問です。本講義では、社会学とはどのようなものの見方をするのか、その基本的な考え方、概念を学びます。そのうえで社会学の幅広い対象の中から、「家族」「ジェンダー」「メディア」「国家」「エスニシティ」など具体的なテーマを取り上げ解説していきます。自らの日常生活のなかで出会う事象を、社会的な視点から捉えなおすことができるようになることを目指します。	社会学を学ぶと、当たり前と思ってきた世の中を見る目が変わります。この授業をそのひとつのきっかけにもらえればと思います。授業の環境が許せばグループディスカッションもおこないたいと考えています。ぜひ積極的に参加してください。				○	○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理 融合 科目	授業目的区分		
							A	B	C
社会学Ⅱ	府	中谷 勇哉	後	<p>本講義では、社会学的な視座・理論と個別事例の紹介を通して、身の周りの社会現象を理解・分析するための方法を学ぶ。扱うトピックは「アイデンティティ」「ジェンダー」「ポピュラー音楽」「ネット右翼」など多岐にわたる。本講義では、これら社会にまつわる概念や現象を個別的に理解するだけでなく、それが他の社会現象や社会全体の歴史的な動きとどのような関係にあるのかというマクロ的な視点を獲得することを目指す。また、身近な社会現象から、そこに潜む格差や「不安の増大」などの社会問題を発見する目を養うことも本講義の目的である。</p>	<p>「なぜみんなInstagramに同じような写真をあげるのだろうか」「男らしさ/女らしさを押し付けられるのがつらい」など、この講義ではみなさんが日常で感じる疑問や経験を「社会」という大きな視点から捉え、説明することを目指します。抽象的な概念も多く登場しますが、ぜひご自身の経験に引き付けて考えてみてください。</p>		○	○	○
政治学	工	西村 真彦	後	<p>国際社会は、世界政府や世界警察のない「無政府状態」である。そのような中で国際社会や、その主たる構成員である主権国家は、どのように秩序や平和を守ろうとしてきたのだろうか。本講義ではこのような問題意識を念頭に置きながら、国際社会や、国家の対外政策について考えていく。</p> <p>講義の前半では、国際関係に関する基礎的な知識や物の見方を学んだ上で、歴史上、どのように国際秩序が作られ、崩壊し、さらに再建が試みられたのかについて見ていく。講義後半では、安全保障問題について、個別のテーマ毎に検討を深める。</p>	<p>東アジアでは、中国の台頭や北朝鮮の核・ミサイル開発が進む一方で、アメリカは相対的に衰退し一国主義を強めています。日本を取り巻く国際関係に変化が生じる中で、今後の日米外交や国際秩序、平和について不断に考えていく必要があります。</p> <p>そのための手がかりを、この講義から得てもらうことができれば嬉しく思います。</p>		○		○
国際政治	府	宮脇 昇 玉井 良尚	前	<p>① 今世界で何が起きているのかを知る手掛かりとして、現代の主要な人類の課題としての国際問題をとりあげる。② 近現代の国際政治は、国家間の対立と協調という二つの極の間を揺れ動いてきた。冷戦期を経てウクライナ侵攻後の状況は、再び冷戦的状况になったといえる。大国間平和が正義かの掎一が迫られる状況に世界はどのように対処できるのであろうか、これについて理解を深める。③ さらに、問題への対処能力の多くを動員することができる主権国家、主権国家を構成単位とする国際機関、近年ますます存在感を強めているNGOや国際世論のマルチレベルガバナンスを理解する。</p>	<p>毎日、新聞を読む、あるいはインターネットでニュースをチェックする習慣を身につけてください。ニュースをチェックすることは、授業の予習・復習にもなります。</p>		◎	○	○
経済学入門	工	人見 光太郎	後	<p>経済学とは、人間や企業が経済的な誘因に対してどのように行動し、その結果として経済システムがどのように動くかを分析する学問です。この授業ではトレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配という現代経済学の中心概念をもとに経済学の基本的な考え方と分析の方法を学びます。</p>	<p>経済に関した問題では立場の違いにより極端な議論が行われる場合がありますが、できるだけ客観的な事実を目を向けるようになって下さい。</p>		◎		
医療と社会	医	笠井 敬太	前	<p>どのような状態が「病氣」とみなされるのか、「病氣」／「健康」であることの意味、社会における病人の役割、病者と医療者との関係などは、時代や社会構造によって異なります。医療社会学はこのような医療に関する事象の社会的な側面を対象とする学問です。この講義では、病むことや医療にまつわる様々な事例を紹介しながら、医療社会学の基本的な概念と考え方を学ぶことを目的とします。実際の医療に関する報道や社会問題を取り上げ、医療社会学の視点から一緒に考えてみましょう。</p>	<p>将来、医療に携わることを考えている方も、そうでない方も、ぜひご参加ください。</p> <p>医療に関連する新聞記事や映像資料を題材として議論も行いたいと思います。みなさん自身も、医療問題に対してアンテナを立て、意識して接するようになってみてください。</p>		○		
法学	工	上本 翔大	前	<p>「法」は堅苦しく一般市民にとっては縁遠いものに思われがちですが、学校にルール（校則）があるように、「法」は私たち国民が社会生活を円滑に送るためのルールです。この授業では、憲法・民法・刑法を中心に、現在進行形の時事問題（法改正の動向や裁判例など）や具体的な事例にも言及しながら、「法」の基本的な考え方や役割についてレクチャーします。「法」を学ぶことで社会の仕組みについて理解することができるようになるでしょう。</p> <p>この授業の主な目的は、①法学の基本的な考え方や基礎的な知識を習得すること、②それらを活かし、具体的な法的課題の解決を構想できるようにすること、の二つです。</p>	<p>法学は唯一絶対の「正解」がある学問ではありません。Aという考え方もBという考え方も、説得的でありさえすれば、どちらも「正解」です。</p> <p>この講義では、現代社会で生じている様々な法的問題を紹介し、問題提起を行います。是非、皆さんそれぞれの説得的な「正解」を考えてみてください。</p>		○		



《人間と社会》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 融 合 科 目	授業目的区分			
							A	B	C	
生活と経済	府	小沢 修司	後	経済(=生活の営み)の仕組みを知ることは私たち自身が社会の主人公になる上で欠かすことができない。にもかかわらず、「経済学」には私たちの生活とは縁遠い難しい学問とのイメージがつきまとう。なぜ、「経済学」は日常の生活、暮らしから離れていったのか、「生活と経済」の切り口から経済学の特有なものの方の見方、考え方を平易に解説しながら、経済学的人間的再生を目指す。	大学での学習では2つのことが大切です。1つは「常識を疑う」こと。もう1つは「何故?」と問いかけること。授業では、みなさんが「当たり前」と思っているいろいろな考え方や観念を突き崩していきたいと思っています。考え方の「再構築」にあたっては、「生き生きとして現実感覚」で「古典」を学習することが有効です。		○	○		
こころの科学	工	西崎 友規子 来田 宣幸	前	本講義では、人のこころの働きを科学的に解明しその法則を明らかにしようとする学問である“心理学”について、理論的な説明とともに、日常生活の中で経験する様々な事柄に関連づけて紹介し、さらにデモンストレーションを通じ実際に自分の心の働きを体験することによって理解を深めていく。心理学が対象とする領域は多岐に渡っているが、本講義では主に、実験心理学と呼ばれる分野について概説する。基本的な理論、および日常場面における人のこころの働きについて広く知ることを通して、心理学の視点から人のこころの仕組みを理解する方法を学ぶ。	人は、自分や他人の“こころ”と向き合いながら生活しています。“こころ”を切り離すことはできませんし、改めて考えると「“こころ”とは何?」、「他人の“こころ”は?自分の“こころ”は?」と様々な疑問が湧くでしょう。心理学は、この疑問に科学的に答えを得ようとする学問です。どのような方法で答えが得られるのか/得られないのかわかり、自分自身や他人との関係をみつめ直したり、日常で生じる出来事について心理学の視点から考え、理解するきっかけとなればと思います。		○			
発達心理学	医	上條 史絵	集中・夏	人の発達には、胎児から始まり亡くなるまでの、長い期間におよびます。つまり発達とは、身体的な成長だけではなく、人が知性・理性を兼ね備えた人間として成熟する過程の探究です。発達心理には感覚・言語・運動・認知などの各種基本的能力に加え、社会性や感情の発達、コミュニケーション能力、パーソナリティなど、他者と関係をもちながら生きていくための能力も含まれます。本講義では、発達の各段階で期待される成長とつまづき、未熟によって起こる問題について学びます。ジェンダーや、児童虐待、不登校、不応答、発達障害などの現代社会の心理的問題についても取り上げて、自分なりの視点や意見をもつことを目指します。	みなさんの年代にあたる青年期・成人期の発達では、アイデンティティの問題や仕事・結婚・子育てなど身近なことに関しても、さまざまな知識やデータを参照しながら学び、考えます。ワークを機会を多く設けるので、みなさんの、過去を振り返り、現在と未来をみつめる機会にもなるでしょう。		○	○		
現代社会と心	府	石田 正浩	後	私企業であれ、公的組織であれ、良くも悪くも組織と関わらずにられないのが現代社会の特徴である。組織心理学は、そのような組織における人間の心理・行動を研究する学問領域である。組織がその構成員に期待する貢献と構成員が組織から期待するものを一致させることは難しく、さまざまな問題を産みつつ、現実の組織は動いている。本講義では、組織心理学が蓄積してきた適性・モチベーション・自己制御・コミットメント・リーダーシップ等についての知見を知ることを通して、組織を生きる人間の心理学的・行動学的特徴を理解し、自らのキャリア(職業人生)を考えていく上で有用な心理学的な視点を獲得することを目的とする。	自分が所属するゼミやサークル、アルバイト先といった集団も組織です。授業内容はそこの自らの体験と直接関連します。授業内容を自分にあてはめてみて理解を深めたり、学んだ知識を実際に応用してみたり、理論の切れ味や切れなさを体感するようにしてください。		○	○		
現代社会とジェンダー	府	瀧本 知加 ほか	前	本講義において、「ジェンダー」は重要なテーマの一つですが、必ずしも性差だけを扱う講義ではありません。自分も含めた全ての人のフェアネス(Fairness)について、積極的に関心を持ち続けるための導入の講義です。社会科学や人文科学だけではなく、自然科学系の受講者にも本講義の受講を勧めます。 内容構成の柱は、大きく3つに分けられます。一つは、歴史をジェンダーの視点から捉え直すこと。二つ目は制度・政策におけるジェンダーバイアスについて。三つ目は、言語や文学、心理学、教育などにジェンダーがどのような影響を与えているか、ということです。 授業の方法としては、講義形式に依りつつも、最終講義は学生からのアンケートに答える形で、講義担当者全員による討論会形式によって行い、受講生と講師団との「対話的学習」を実現したいです。	ジェンダーは、聞いたことがあるけどよくわからないという人、なかには「女性差別の問題である」と狭く考えている人や、「特定の人たちだけが騒いでいる」と否定的・冷笑的に理解している人もいるかもしれない。ジェンダーは社会の構造を構成する要素の一つであり、緒科学(自然科学・人文科学・社会科学)にとって、すでに「当たり前」に考慮にいれるべき要素」として定着しています。 ご自身が自由に行動し、思考しているように思えたとしても、全員が社会におけるジェンダー構造の影響を受けています。 この講義の履修を終えたとき、ジェンダーという概念は、あなたの「日常」となり、社会や人間の見え方が大きく変わっていることでしょう。		○	○	◎	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 合 目	授業目的区分		
							A	B	C
現代教育論	工	末岡 加奈子	前	<p>教育とは何か、学校とは何か、という問いに対して、多くの人は何らかの考えや意見を持ち合わせていることが多い。しかしその多くが、個人の学校体験や教育体験のみに基づいた狭隘な教育観である場合が多いこともまた事実である。</p> <p>本講義では、「教育」や「学校」について、歴史的背景や他国の事例にもふれながら、社会学的視点から捉え直す機会を提供する。このことを通じて、子どもの貧困、学力格差、不登校、社会の多言語・多文化化や共生社会のあり方等、今日のグローバル化した社会において私たちを取り巻く現代的な諸課題について、分析的に俯瞰できる眼差しを獲得し、より良い社会の実現に向けた方策に寄与できるよう、考察を深めていくことを目指す。</p>	<p>本講義を通じて、皆さんのこれまでの教育観が、地球規模での長い歴史の中で見ればわずが一瞬の”スクリーンショット”であることに気付くかもしれません。著しいスピードで社会が変容する中、より広い視野で社会を眺める眼差しを獲得し、今後の人生の糧にしたいと思います。目からウロコが落ちることを期待しています。</p>			○	○
環境と法	工	吉川 聡美	後	<p>本講義の目的はふたつです。(1) 現代社会の重要論点たる環境問題に対処するための、法的なしくみを学びます。(2) これを通じて、法学の基本的な考え方を具体的に習得します。</p> <p>社会問題を解決するアプローチにはさまざまなものがありますが、そこで「法」は重要な役割を果たしています。「持続可能性」への取組からは、裁判の場面に限られない、政策実施手段としての法の様々な側面も明らかになるでしょう。</p> <p>授業ではいろいろな環境問題およびそれへの法的対応に触れますが、そのうちひとつかふたつをピックアップし、じっくり向き合うことも予定しています。そこでは実際の法律や判決といった生の素材も（大きな負担にならない程度に）扱います。</p>	<p>本講義は、みなさんが法学をすでに学んだことも、今後専門的に学ぶことも前提としていません。「環境問題」や「法律学」に関心を持つ方を広く歓迎します。</p> <p>学部学科問わず、各大学で学ばれたみなさんは様々な形で社会のしくみを設計し活躍していくことでしょ。そのときに法学的な見方の意義と限界とを意識できるようになるための、お手伝いができればいいなと考えています。</p>			○	
現代医療の人間観	医	杉岡 良彦	後	<p>医学の根底には、それを支える科学論や人間観があります。それらの理解は医学生だけではなく、広くあらゆる学部の学生にも重要であり、それぞれの立場から批判的に考察すべき問題であると考えます。本講義では、医学・医療の前提となる人間観に注目し、分子生物学やEBMという科学的方法との関係を考えます。さらに、精神科医であるV.フランクルの人間観を取り上げながら、病に苦しむ患者さんに医学・医療は何ができるのか、できないのかを考えてみたいと思います。医学という学問が、単なる科学の応用ではなく、哲学、倫理、社会学など、様々な学問領域に開かれた学問であることを、人間観に注目しながら考えたいと思います。</p>	<p>この講義はすべての学部の皆さんに開かれています。身近な医療の基礎となる医学を、特に人間観の観点から考えます。この講義を通じて、これからの人生や将来の研究を考えるヒントを得てくだされば幸いです。</p>	◎	◎	○	○
食ブランディング論	府	平本 毅	前	<p>ブランドとは、ある商品なりサービスなり、あるいは企業や組織なりを、ほかのものと区別するために用いられる記号です。ブランドがあることによって、消費者は安心して買い物ができるようになりますし、またブランドの品を身につけたりすることで、自分らしさを他者に見せることもできるようになります。企業は競合他社との差別化を行うことができますし、商品に価値を付加することもできるようになります。食の分野でも、ブランドは企業の経営にとって、また消費者の食生活にとって、なくてはならない存在です。この授業では食品や飲食、食サービスなどの広い意味での食産業におけるブランドの役割、歴史、そのマネジメントなどについて、実例をもとに学びます。</p>	<p>みなさんの身の回りの品々をあらためてみると、いかに現代人がブランドに囲まれた生活をしているかがよくわかります。いわゆる高級ブランドのみならず、食の分野では、プライベートブランド（小売業者などが自分で商品を生産するブランド）、地域ブランドなど、多種多様なブランド食品がみなさんの食生活を支えています。この授業では、身近な食産業のブランドをきっかけに、奥深いブランドの世界に入って学んでいく手助けを行います。</p>			○	

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 融 合 科 目	授業目的区分		
							A	B	C
京の産業技術史	工	畑 智子	前	<p>京都は幕末から政治的混乱と戦火に見舞われ、さらに東京への遷都が決定的となり、心情的にも経済的にも大きな打撃を受けました。しかし他都市に先駆けて新たな近代都市としての町づくりと産業の活性化、貿易振興をすすめていきます。</p> <p>京都では明治四年に国内で初めて博覧会が開かれ、その後海外で開かれた万国博覧会にも積極的に参加します。ここでは京都博覧会、内国勸業博覧会、万国博覧会の動きを軸に染織や陶磁器等の伝統産業の新たな進展をたどり、先進的な京都の産業界の取り組みについて学びます。</p>	<p>明治期は京都のみならず国家の存亡にかかると危機的な時代でした。その際に人々がどのように知恵と力を出し合って乗り切ったかを知ることは、これからの厳しい時代を生きる若者に大きな指針を与えてくれると思います。歴史の事実をただ追うのではなく、人々の置かれた環境や状況を踏まえ、彼らの思想や生き様にまで思いを馳せながら学んでほしい。</p>			○	○
現代京都論	府	大島 祥子	前	<p>講義では、学び、暮らすまちである「京都」をより深く感じ、考える機会を提供します。京都の現代で起きている事象をテーマごとに考察し、京都の特性と課題を読み解き、未来のまちづくりを考えることを目指します。講義内容は、前半で現代の京都のまちづくりの基盤ともいえる、都市経営や庶民の暮らしやまちとの関わりの変遷（まちづくり史）を学習し、さらにまちづくりの基盤・組織、コミュニティについて学習します。これらをふまえた上で、後半では、テーマごとの事象を読み解きます。行政施策を取り上げるものが多いですが、NPOや民間事業者等が展開する事例、地域で展開される活動なども採用してテーマを深めていきます。</p>	<p>京都の歴史や自治の基盤を踏まえ、行政、市民活動、大学、企業など多様なセクターによる京都のまちづくりやその背景にあるものを学びます。今まさに京都で起こっている様々なテーマを取り上げ、解説します。講義を通じて学び・暮らす京都に関心を持ち、をより深く理解し、自分の言葉でそれに対する見解をもって欲しいと思います。そしてそれを研究の糧にして欲しいです。</p> <p>本科目はレポート提出を予定しています。このため、毎回、授業の最後に、レポートの書き方等に関する「ワンポイントレクチャー」を行います。</p>			○	
京都学講座 (人間と社会)	機	小沢 修司 宗田 好史 並木 誠士 増村 威宏 八木 聖弥 吉岡 真佐樹	前	<p>第Ⅰ部（近代京都と三大学）第2回～8回 皆さんが学ぶ京都の三つの大学が誕生した背景と、それぞれが果たしてきた役割を学び、自分たちが暮らす京都の歴史と現代社会について深く理解する。また、それぞれの大学が京都の産業、経済、医療、教育、福祉にどのように関わり、地域社会を発展させてきたかを学ぶことにより、自分たちがこれからどのように京都の社会に貢献できるかを探る、また自分たちの将来像を見つける手がかりとする。</p> <p>第Ⅱ部（京都の経済）第9回～15回 府内の企業をはじめ企業や産業の育成を支援する関係機関・団体等からゲストスピーカーの方を招き、様々な立場から府内の経済・産業の現状や課題、経営環境の変化への対応や地域経済に果たす役割などの講義を受け、京都の経済が抱える課題とともに、企業や産業の育成にはどのような支援が必要であるのか、課題解決の方策を学ぶ。</p>	<p>(近代京都と三大学) 皆さんが学ぶ三つの大学は、有数の歴史を誇る京都の名門大学です。京都は一地方都市でなく、歴史都市として、また先端産業の拠点として世界に知られる知的集積の一端を担ってきました。ただ三大学とも地味な校風で、その歴史や現在の活動を知らずに過ごす学生さんもいます。そんな皆さんが、三大学に魅力を感じ、母校への愛着を高めるとともに、教養教育共同化を通じた三大学のつながりを深めるための授業です。</p> <p>(京都の経済) 京都府内には、創業から100年以上続く老舗企業からベンチャー企業まで、様々な企業が活動しており、世界をリードする企業から数多くの小規模企業に至るまで、京都に誇りと愛着を持った京都ブランドや京都商法と呼ばれる特徴を有しているのが京都の経済です。</p> <p>また北部の丹後地域から南部の山城地域に至るまで、各地域の歴史や自然環境などに育まれてきた様々な産業があることをご存じでしょうか。</p> <p>本講義を通じて、学生の皆さんが府内の企業や産業に魅力を感じ、各地域への関心を高めるとともに、大学生生活を通じて、何を学び身に付けるべきか、考える契機になることを望みます。</p>		◎		○

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理融合科目	授業目的区分		
							A	B	C
現代社会に学ぶ 問う力・書く力 (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	杉山 東洋	前	<p>「高校での学び」から「大学での学び」へ転換するにあたって、不安を感じている1回生も多いだろう。本リベラルアーツ・ゼミナールは、そのような1回生を対象として、「論文とはどのような文章なのか」といった初歩から始める。</p> <p>大学での学びは、「聴く」ことや「読む」ことといった受動的な学びに、「問う」ことや「書く」ことといった能動的な学びが伴って、初めて完結する。そのような特徴を伝えるために、教科書には刈谷剛彦『知的複眼思考法』を使用する。この教科書は、東京大学における「論文の書き方」の指導をまとめたものである。高校でも、「総合的な探究の時間」の参考書として、活用した学生もいるだろう。</p> <p>「受験勉強の学び」とは違った「探究的な学び」とはどのようなものか。「知的複眼思考法」を精読することで、その違いを伝え、「問い」が立つ頭を鍛えていく。</p>	<p>大学での学びは、自ら「問い」を立てることです。本リベラルアーツ・ゼミナールでは、自ら立てた「問い」についてレポートを作成し発表するという、「書く」という行為に重点を置いたアクティブ・ラーニングを展開します。</p> <p>パソコンや図書館の使い方も含め、1回生を対象に初歩からレクチャーします。最初は小学生レベルの反論文の書き方から始めますが、最終的には東京大学など多くの大学で広く使われているロジカルシンキングの教科書を読みこなし、レポート執筆に活用できるレベルを目指します。</p> <p>「問い」を意識しながら読み、「問い」を意識しながら書くという、すべての科目に共通する初年次教育を展開します。</p>	○	○	○	
社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	機	杉山 東洋	後	<p>社会科学の学び方とは、学生一人ひとりが「人生をいかに生きるべきか」を問うことであり、その生き方を問う問いが「自分がいま生きている社会をどう見るか」という社会認識を問う問いと不可分に結びついていることである。</p> <p>本リベラルアーツ・ゼミナールでは、定評のある教養教育のテキスト(吉野源三郎『君たちはどう生きるか』、レイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』)を精読する。両テキスト共に、主人公の「成長物語」の形を取った、シティズンシップを学ぶための良書である。併行して、映画『母べえ』(山田洋次監督)を鑑賞し、『君たちはどう生きるか』が出版された「1937年」の時代状況を想像し、「日本人は戦争体験から何を学んだのか」を考察する。</p> <p>毎回、教科書について予習レポートを課す。授業は、予習レポートの提出を前提としたディスカッション型の「反転授業」である。「自由闊達」「多事争論」の気風を大切にしながら、教養教育の原理像と思想性を学ぶ。</p>	<p>本講義では、具体的なテキストや映画を材料にして社会の捉え方を学んでいきます。決して万能な道具を手に入れる時間にはなりません。専門的な知識を得ることに主眼を置いているわけでもありません。社会科学というひとつの足場を得ることが、この授業の目的です。それは結果として、皆さんが今後の学生生活の中で各々の視座を作り上げていくための支えとなるでしょう。</p>	○	○	○	
世界はいま (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	榎原 美樹	集中・夏	<p>ここ数年、世界の様相は激しく変化しています。グローバル化された世界で、人やモノが自由に移動し、情報はネットを通じて瞬時に伝達するようになりました。一方で、グローバル化への反発から「自国第一主義」が台頭、国際協調が後退し、国家間や社会の中でも格差が広がっています。また新型コロナウイルスのパンデミックで各国政府は対応に追われ、世界経済も低迷、「グローバル化の終焉」も論じられる中、中東や東欧で紛争が起き、多くの命が失われ、百万単位で難民も増え続けています。</p> <p>この授業では、こうした状況をどのように捉えるべきか、日本や私たちの社会とどう関係するのか、「グローバル」と「ローカル」という二つの軸から、皆さんとともに議論し、「暑い夏の二日間」にしたいと思えます。</p>	<p>担当するのは、NHKで長年、世界の政治や紛争・災害といった事象を日本に伝えてきた国際ジャーナリストです。これからグローバル社会で生きていこうとするみなさんが、世界の動きをどうとらえ、自分とどう関係があるのかを考える一助となればと考えています。</p> <p>ロシアによるウクライナへの侵攻や、イスラエルとハマスの対立は、2025年、世界にどのような影響を及ぼすのか。コロナ禍は世界にどんな教訓を残したのか。国際情勢は実は日本とも直結しています。このゼミナールではグループに分かれてディスカッションや発表なども行います。国際社会と日本の関わりに、関心を持つ方は是非受講してみてください。</p>		○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 融 合 科 目	授業目的区分		
							A	B	C
時事問題で学ぶ ファシリテーション (リベラルアーツ・ ゼミナール)	機	居神 浩	集中・夏	<p>ファシリテーションとは、多様な考え方をを持った他者との対話を重ね、その対話から生まれる知的な相互作用を促進するためのコミュニケーション・スキルである。本リベラルアーツ・ゼミナールでは、一義的な回答が定まらない時事問題を教材にして、ファシリテーション・スキルの向上を目的としたグループ・ディスカッションを重ねていく。講義、グループ・ディスカッション、小論文執筆、プレゼンテーションを組み合わせることで「主体的、対話的で深い学び」を目指す。</p> <p>今年度は高校の新課程科目である「公共」の内容をベースに、建設的な話し合いができる「公共的空間」の意味を確認したうえで、「法・政治的課題」として「若者の選挙離れ」「なくならない差別」「異議申し立ての大切さ」、「経済・社会的課題」として「負担と福祉のあり方」「地方再生」「校則改革」などの時事問題について議論していきたい。</p>	<p>ファシリテーターにとって、最も大切なものは「問いを立てる力」です。「答え」を性急に求めるのではなく、「問い続ける」「問いをさらに深める」力を身につけてほしいと思います。</p> <p>本リベラルアーツ・ゼミナールでは、三大学の学生交流を大切にしています。今年度の授業は夏期集中の5日間ですが、この出会いをきっかけに何か新しい取り組みをみんなで考えていってもらえることを期待しています。</p>	○	○	○	
マーケティング入門 (リベラルアーツ・ ゼミナール) (2回生以上)	機	児玉 英明	前 (午前)	<p>前半はマーケティングの考え方を学ぶ。定評のある入門書、沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 第3版』を精読する。扱うテーマは、「マーケティング・ミックス 4つのP」「ターゲット市場の選定 セグメンテーション」「製品ライフサイクル (導入期・成長期・成熟期・衰退期)」「市場地位別マーケティング戦略 (リーダー・チャレンジャー・ニッチャー・フォロワー)」である。</p> <p>後半は「ネスレ日本 ネスカフェアンバサダー」「パナソニック 電動歯ブラシ ポケットドルツ」「松任谷由実 ユーミンパー」「緑茶飲料戦争 おーいお茶、綾鷹、生茶、伊右衛門」「ビール戦争 アサヒスーパードライ、キリン一番搾り」「カフェのポジショニング スターバックス、ドトール、コメダ、コンビニコーヒー」「ニッチャー パニラヨーグルト」を扱う。</p> <p>※2回生以上を対象</p>	<p>マーケティングと聞くと、お金儲けの勉強のように捉えている人もいますが、それはありません。確かに、マーケティングにはそのような側面もありますが、本来はビジネスにおける「問題発見・問題解決の積み重ね」を考える勉強です。本リベラルアーツ・ゼミナールは、具体的なケーススタディを想定し、そこからビジネスにおける「問い」を見いだすことで、学生に「問題発見・問題解決」の思考を体験させるPBL (Problem Based Learning) 科目です。</p> <p>民間企業に就職が決まったが「マーケティング」を勉強したことがない4回生、就職活動で求められる「業界研究」の作法が分からない3回生、2回生を対象にします。全ての社会人が保有すべき「教養としてのマーケティング」を伝えます。マーケティングの考え方を基礎から説明しますので、理系の学生も安心して受講してください。</p>	○	○	○	
プレゼンテーション 力とは (リベラルアーツ・ ゼミナール)	機	榎原 美樹	後	<p>「プレゼンテーション」とは、送り手から受け手に情報を発信すること。しかし、決して一方通行であるべきではない「双方向のコミュニケーション」ととらえるべきものです。情報の質、量、速度に重きが置かれる情報時代に、プレゼンテーションの力をつけることはより重要となってきます。相手の心に響く、よりよいプレゼンテーションを行うには何が必要なのでしょう。どのように伝える力をつければよいのでしょうか。</p> <p>このゼミナールでは、みんなで考える機会を多く設け、実践を交えながら、プレゼンテーションの力を育み、蓄えていってもらいます。そして、学内の授業や学会での発表、オンライン・セッションでの発表のみならず、他人のプレゼンテーションをどう聴き、質問し、何かを習得してゆく方法についても学んでいただこうと思います。</p>	<p>担当するのは、NHKで長年、世界の政治や紛争・災害といった事象を日本に伝えてきた国際ジャーナリストです。スタジオからニュースを伝えたり、時事問題を国際的な識者と討論を行う番組の司会を務めたりしてきました。その中で”人に伝えること”には何が必要なのか？は常に自分に問うてきたことです。”心に届く伝え方”は、学内の発表のみならず、社会人になればさらに重要なスキルになってくることでしょう。学部、学年問わず、どなたでも受講してくださいね！</p>		○	○	

■人間と自然

《自然科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理 融合 科目	授業目的区分		
							A	B	C
物理学Ⅰ	府	安田 啓介	前	<p>この講義では身の周り（から宇宙まで）で起きる様々な物理現象を支配している原理とその意味を理解することで、物理学的視点からの考える能力を養うことを目的としている。また、自然科学の基本となる単位や次元および簡単な物理公式を説明し、物理学で重要となる保存則などの概念についても講義する。</p> <p>講義の流れとしては、自然科学における物理学の歴史を概観し古典力学（ニュートン力学）の成立までをガリレオ、ケプラー、ニュートンなどの考え方とその業績について講義する。また、古典力学が地球上から天体までの様々な物体（天体）の運動を正しく表すことができることを説明する。</p>	<p>科学技術の急速な進歩に伴い、先端技術を取り込んだ様々な機器が普及し、その恩恵を受けながらも、多くの人々にとって中身は不明（ブラックボックス化）となりつつある。</p> <p>本講義を通してこういった日常的に目にする様々な事象について物理的・合理的に思考を重ねて追及するスタイルを身につけてもらいたい。</p>		○		
化学概論Ⅰ	工	田嶋 邦彦	前	<p>高度な技術、資源、エネルギー、環境など、現代の社会を考えるに不可欠なキーワードのどれもが、物質と密接に関係しています。その意味で、物質を対象とする科学である化学は、現代社会で知識人たろうとするに、必須の素養といえます。この講義では、物質について理解が、どのように変遷し、今日での理解に至ったのかを、化学における歴史上のエピソードをなぞりながら学習し、それを通じて、“物質のなりたち”と“物質の変化”という化学の大きな輪郭を勉強したいと思います。</p>	<p>わが国では、“きたるべき受難への対策”に縛られがちな授業のあり方が、自発的な知識欲を減退させているのは否めません。軽重の差はあっても、皆さんは高校化学にふれてきたと思います。しかし、化学の面白味をふつつと感じた人は、少ないかも知れません。大学に合格されたいま、そのおもしろさを再発見しながら、教養としての化学に触れていただければと思います。</p>		○		
化学概論Ⅱ	工	角野 広平	後	<p>化学では、あらゆる「モノ」は物質から成り立っており、その物質は原子や、原子がいくつか集まった分子から構成されていると考えて、「モノ」にかかわるさまざまな事象を、原子や分子の振る舞いから理解しようとする。</p> <p>この講義では、身近なところにある物質を材料（人類社会に役に立つ物質）という視点からとりあげ、その物質の持つ性質（特性）や、その物質がどのようにして作られるのか、また、なぜそのような変化（反応）を起こすのか、さらにはなぜ材料として用いられているのかなどについて、できる限りその物質を構成する原子や分子の性質に立ち返り、さらにはその根底にある化学の基礎的な分野（化学熱力学や量子化学など）にもふれつつ説明する。これらをおして化学的な（モノの）見方、考え方を身につける一助としたい。</p>	<p>現代は、いつでもどこでも必要な情報がすぐに手に入る時代です。しかし、得られた膨大な情報から、必要なことごとを取り出して理解し、知識として利用できることが重要です。皆さんはそのようなことにも慣れていますが、大学での学びをおしてその能力を一層磨いてほしい。</p> <p>学生の頃、「分子の気持ちになって考える」と聞いたことがある。分子に気持ちがあるはずはないのだが、その分子の性質を考えるとき、原子の性質や電子の振る舞いから考えなさいということであったかと思う。皆さんもこの講義をおしてそのような化学的な見方、考え方を感じていただければ幸いです。</p> <p>高校の時に使っていた教科書や参考書は、（少なくともこの講義の間は）身近において、必要なとき参考にしてほしいと思います。</p>		○		
生物学概論Ⅰ	工	疋田 努	前	<p>自然科学の中で生物学が対象とする生物は、物理学や化学が対象とする物質とは異なっている。それはゆっくりと進化し、分化して多様化してきた。生物というものがどのようなものを、性、寿命などの生物の特徴とその構造について解説する。そして、生物がどのように認識されてきたかを、博物学史から概観し、種とは何か、個体とは何かについても考察する。</p>	<p>生物学が対象とする生物はヒトを含んでおり、生物とは何かという問いは、ヒトは何かという問いにつながる。だから生物について知ることは、我々自身が何者かという問いに答えることになる。現代の生物学がヒトを含む生物をどのようなものと考えているかを学んでみよう。基礎的な生物学も知識が無くて大丈夫です。</p>		○		
生物学概論Ⅱ	工	疋田 努	後	<p>地球上には多様な生物がすんでおり、それらはただ一つの生物に由来すると考えられている。それらの生物がどのように分化してきたかをたどり、多様な動物群、なかでも、我々を含む脊椎動物の起源とその多様な動物群の特徴と進化について概観する。多様性を理解するには分類学と系統学が必要となるので、これについても説明する。</p>	<p>我々の周りにいる多くの生物にはどのような関係があり、どのように進化してきたかを見てみよう。我々が属する脊椎動物は海で生まれ、その一部が陸に進出してきたもので、ヒトも祖先となる魚類、両生類、爬虫類の特徴を残しています。哺乳類にも卵を産むものがあるのです。</p>		○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理融合科目	授業目的区分		
							A	B	C
生命科学講話	府	塚本 康浩 ほか	集中・夏	遺伝子、植物、動物や病原体の研究、さらにはそれらを基盤とした食品や医療への応用について学ぶ。教科書などでは見ることが出来ない教員が実際に行ってきた研究成果を実感し、生命科学の本質を「講話」という形で体験する。	生命科学の研究における生データや今後の将来性を、実際に手を動かして実践してきた研究者（教員）から感じ取って欲しい。さらに、生命科学の研究に興味を持ってもらえたらと願う。		○	○	

《人間と自然・科学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理融合科目	授業目的区分		
							A	B	C
人と自然と数学αⅠ(1Q)	工	峯 拓矢	前(1Q)	高等学校や大学初年次で学ぶ数学の題材は主として19世紀までに確立したものであり、中にはその考え方が4000年以上遡るものもあります。本授業では、古代の数字の書き方・読み方・計算法、三平方の定理や作図法、黄金比など、いくつかの題材についてその起源にさかのぼって、元々の考え方に触れ、それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるかを理解していきます。 歴史的な資料等に基づいての講義と演習から成り、演習では、歴史上の元々の考え方に触れながら、古代の計算法を学んでいきます。	この授業を通して、これまでに習ってきた一つ一つの数学的概念のルーツやそれを作り上げてきた人々の努力を知ること、数学をより身近なものとして再発見してくれることを期待しています。 数学を苦手だと思っている人からもっと数学を使いこなしたいという人まで、幅広く受講して欲しいと思います。		○	○	○
人と自然と数学αⅡ(2Q)	工	峯 拓矢	前(2Q)	本授業では、三角関数、微分積分学、円周率の計算、代数方程式の理論、行列など、中世から近代に現れた数学について、その起源にさかのぼって、元々の考え方に触れ、それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるか、およびその現代社会における役割についても触れていきます。 歴史的な資料等に基づいての講義と演習から成り、演習では、歴史上の元々の考え方に触れながら、古代の計算法や、現代数学やコンピュータ・テクノロジーなどで用いられている計算法についても学んでいきます。	この授業を通して、これまでに習ってきた一つ一つの数学的概念のルーツやそれを作り上げてきた人々の努力を知ること、数学をより身近なものとして再発見してくれることを期待しています。 微分積分学も扱いますが、高校で数学Ⅲを履修している必要は必ずしもありません。微分積分学とはどのような学問か、などの興味を持っている方も、基礎から学んでいけるようになっておりますので、幅広く受講してみてください。		○	○	○
生物学的人間学	医	後藤 仁志 ほか	前	本講義では生物学的視点から「ヒト」を包括的に理解することを目標とする。ヒトを含めたすべての生物は、細胞→組織→器官→個体という階層性を持っている。個体は常に環境からの影響を受け、その変化に適応し、恒常性を維持する。講義は3名の教員によるリレー形式で行う。人体の基本構成要素としての細胞の働きが人体の恒常性に果たす役割について紹介する。また、ヒトの生理機能が時間軸に沿って変化していくことに留意し、発生期にみられる幹細胞システムや個体が老化する仕組み・老化に伴う機能的変化に焦点を当て学習する。更に、恒常性の破綻によりもたらされる腫瘍形成などの疾患についても紹介する。	生物学的な視点からのヒトの理解は、生命科学や医学の基礎となるだけでなく、生態系におけるヒトが果たす役割の理解にもつながる重要な学問の1つです。受講する学生の皆さんには、この講義を通じて生物学的な観点からの人体の普遍性と特殊性を理解し、自身のからだに対する探究心や洞察力を深めて欲しいと思います。		○		
科学史Ⅰ(1Q)	工	中条 太聖	前(1Q)	私たちが科学を信頼する一つの理由は、科学が客観性を有しているからでしょう。この講義は科学の歴史を学ぶわけですが、「客観性」に焦点を当てて考えていきます。客観性という概念が科学的活動を統制するものとして受容されていく過程と、それに付随して科学実践、科学的視覚、そして科学的主体がラディカルに再編されていく歴史を見ていきます。また、ナイーブには客観性とは「主観性がない」ということで、客観性の歴史を考えることは主観性の歴史を考えることにもなります。この講義では「科学的図像」を主軸に話を進めていく予定です。	科学の歴史についての授業ですが、科学の専門的知識は特別必要ではありません。哲学的な話も出てきますがこちらも前提知識は不要です。気軽に参加してください。		○	◎	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理 融合 科目	授業目的区分		
							A	B	C
科学史Ⅱ(2Q)	工	中条 太聖	前(2Q)	<p>私たちが科学を信頼する一つの理由は、科学が客観性を有しているからでしょう。この講義は科学の歴史を学ぶわけですが、「客観性」に焦点を当てて考えていきます。客観性という概念が科学的活動を統制するものとして受容されていく過程と、それに付随して科学実践、科学的視覚、そして科学的主体がラディカルに再編されていく歴史を見ていきます。また、ナイーブには客観性とは主観性がないということで、客観性の歴史を考えることは主観性の歴史を考えることにもなります。この講義では「科学的自己」を主軸に話を進めていく予定です。</p>	<p>科学の歴史についての授業ですが、科学の専門的知識は特別必要ではありません。哲学的な話も出てきますがこちらも前提知識は不要です。気軽に参加してください。</p>	○	◎	○	
環境問題と持続可能な社会	工	山田 悦	前	<p>日本ならびに地球規模での環境問題の経過と現状を述べ、求められる持続可能な社会に向けての取り組み、特に私たちのライフスタイルの見直しの必要性について議論を深める。講義の内容としては、公害問題、地球環境問題、自然生態系の保全、持続可能な社会への取り組みなどを取り上げる。</p> <p>また、受講生に環境問題を自分たちの問題としての当事者意識を持ってもらうよう促していきたい。</p>	<p>環境問題の全体像を把握した上で、環境問題の背景・原因を理解し、合わせて、自らの日常生活と環境問題のかわりを知り、可能な限り環境問題を解決するために行動を起こしてほしい。特に、資源・エネルギー問題や自然共生社会への関心を深めてほしい。</p>	○	○	○	
食と健康の科学	府	小林 ゆき子 ほか	前	<p>「食」と「健康」をテーマに、健康科学、栄養学、食品学、食品衛生学、食事学、栄養教育論、調理科学、運動生理学等の科学的な観点からオムニバス形式で概説する。そして、食と健康の現状と課題を知り、これからのわが国及び世界における食と健康の在り方について考察する能力を養うことを目標とする。</p>	<p>京都府立大学栄養科学科教員によるオムニバス形式の講義を行います。学生は食と健康に関する知識を修得するだけでなく、良い食生活を実践する能力と、それを周囲に広げる能力を身に得ることを目指します。関心のあるテーマについてレポートを作成し、最終回は輪読と討論を行います。</p>		◎	○	
キャンパスヘルス概論	工	牛込 恵美	前	<p>本講義では、健康の意義を学び、肉体的・精神的な自らの健康を創造することをサポートします。最新の医学に基づき、これからの学生生活や将来の社会生活で遭遇するであろう様々な疾病に関する正しい知識を身に付けます。疾病の早期発見、早期介入、予防は何より重要です。信頼できる情報源から科学的根拠に基づいた正しい知識を得る習慣を身に付け、自身の健康を守る力を養いましょう。</p> <p>この授業を通じて、健康で充実した大学生活を送り、将来の社会生活にも役立つ知識とスキルを身に付けることを目標とします。</p>	<p>これから始まる大学生活を乗り切りたいものにするためには、自らが心身ともに健康であることが大切です。この講義では、様々な病気に対して、科学的根拠に基づいた正しい知識を身に付けていただくことを目標としています。皆さんの新しい大学生活が、たくさんの学びと素晴らしい経験で満たされることを願っています。</p>		○	○	○
エネルギー科学	工	林 康明	前	<p>エネルギーの需給は環境問題と関連して人類の大きな課題となっており、総合科学として取り組んでいく必要がある。授業では、エネルギーの物理的な理解と共に、様々な発電方式（水力・火力・原子力・再生可能エネルギー）、エネルギーの効率的利用や貯蔵・輸送方法に関する工学について学ぶ。同時に、環境と生産活動を両立させるにはどのような手段を取るのが適当なのかについても考える。</p> <p>また、ものごとを科学的に捉えて事実を客観的に判断することとはどのようなことか、さらに人類の未来を考えたときに現代に生きる私達はどのような方向に進むのが適当なのかなどについても議論を行う。</p>	<p>産業革命以降、科学技術の発展とともに人類は豊かな社会を築いてきました。しかし、20世紀後半から様々な課題があらわになってきています。産業の基盤となるエネルギーの供給・利用方法についても、環境や安全と両立させる方策として、いろいろな考え方が世の中では錯綜しています。こうした中で、客観的で公平な態度で臨むには、まず科学的に真理や事実を知って理解することが重要です。一方で、科学・技術の知識だけで明確な結論を出すことが難しい場合もあり、選択は私達に託されます。</p>	○	○	○	○
現代科学と倫理	府	岩崎 豪人	前	<p>現代科学にかかわる様々な倫理的な問題を考える。科学技術倫理の基本的な考え方を学びながら、現実の問題への倫理的な対応を考える。現代社会は科学技術の様々な恩恵を享受しているが、一方で、その危険性も顕在化し、科学技術に対する不安も大きくなってきている。身近な技術的製品のリスクから、社会を変えていく科学技術まで、根本的な所までさかのぼって、問題をとらえ直し、吟味、検討を行う。具体的な問題を取り上げながら、当たり前になっていることが、実はそうではないことを認識し、社会への理解と自分への理解を深める。</p>	<p>講義形式で基本的な論点は整理しながら、具体的な問題を議論します。倫理的な問題を考えていくには、自分の感覚だけでなく、他の人の感じ方や意見も知りつつ、どうしていくべきかを考える必要がある。授業中に自分の意見を言えるように、積極的な授業参加を期待します。</p>			○	



科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理 融合 科目	授業目的区分		
							A	B	C
医学概論Ⅰ (3Q)	医	橋本 直哉 ほか	後	<p>わが国で西洋と同等の高等医学教育が開始されたのは、明治維新のころ東京帝国医科大学に加えて、京都府立医科大学の前身である京都府医学校（京都療病院）を含めた府県立の医学校が誕生して以降のことでした。今では、82校の大学医学部/医科大学が存在し、医学の進歩に貢献するとともに国民保健・地域医療を支えています。本講は、現代の医学部教育について紹介する目的で開講されました。基礎医学、社会医学、そして臨床医学の各医学科講義から抜粋した講義をシリーズ化し、歴史背景や最先端医学上の課題について概説します。もって、学生諸君に医学教育課程への理解を深めていただき、大学間の相互交流にも寄与することをその目的としています。</p> <p>※各回ごとオムニバス形式で実施</p>	<p>医学は生命の仕組みの解明や疾病の理解と制御方法を探る「科学」であると同時に、人々の幸せな生活を追求する超複雑系の実学です。この授業では、「医学専門課程で取り扱われる重要な臨床課題や最先端医学」をテーマとし、診療・研究に従事する医学科教員がわかりやすく解説します。医学部学生には「早期導入・自身の医の心と将来像の確立」に最適です。他学部学生さんには「自分の専門領域と医学との関連・連携」を捉える重要な機会になります。幅広い専攻分野の学生諸君の聴講を期待します。</p>	○	○	○	
医学概論Ⅱ (4Q)	医	橋本 直哉 ほか	後	<p>わが国で西洋と同等の高等医学教育が開始されたのは、明治維新のころ東京帝国医科大学に加えて、京都府立医科大学の前身である京都府医学校（京都療病院）を含めた府県立の医学校が誕生して以降のことでした。今では、82校の大学医学部/医科大学が存在し、医学の進歩に貢献するとともに国民保健・地域医療を支えています。本講は、現代の医学部教育について紹介する目的で開講されました。基礎医学、社会医学、そして臨床医学の各医学科講義から抜粋した講義をシリーズ化し、歴史背景や最先端医学上の課題について概説します。もって、学生諸君に医学教育課程への理解を深めていただき、大学間の相互交流にも寄与することをその目的としています。</p> <p>※各回ごとオムニバス形式で実施</p>	<p>医学は生命の仕組みの解明や疾病の理解と制御方法を探る「科学」であると同時に、人々の幸せな生活を追求する超複雑系の実学です。この授業では、「医学専門課程で取り扱われる重要な臨床課題や最先端医学」をテーマとし、診療・研究に従事する医学科教員がわかりやすく解説します。医学部学生には「早期導入・自身の医の心と将来像の確立」に最適です。他学部の学生さんには「自分の専門領域と医学との関連・連携」を捉える重要な機会になります。幅広い専攻分野の学生諸君の聴講を期待します。</p>	○	○	○	
やさしい看護学	医	内海 桃絵 ほか	集中・夏	<p>災害が多いわが国において、災害医療、災害看護の活動が重要視されている。本科目では、災害各期に展開される医療・看護の具体的内容を知り、人々の命や生活がどのように守られているのかを学ぶ。具体的には、災害サイクルごとの看護活動、災害時の感染管理、災害時医療支援行動等を講義と演習（実技）を通して学ぶ。</p> <p>※工織大生・府大生対象 ※医大・看護学学舎（広小路キャンパス）で開講予定</p>	<p>この授業では、災害のいろいろな時期の医療供給体制について学んでいきます。中でも実技を通して学んでいただく「災害時医療支援行動演習」には、災害が起こって1週間位の時期に自らの命を守り、家族や地域住民の被害を減らす上で市民・学生の皆さんに知っておいて欲しい看護技術を盛り込みました。災害時の自助・共助を考える機会としては是非学んでいただきたい。</p>		◎		
光と色彩のサイエンス	機	石田 昭人	前	<p>この講義では、光と色彩について、背景となる物理から、宝石、服飾や化粧品、インテリアや照明器具のような生活用品、美術工芸品、文学や歴史との関連、さらには、LEDやディスプレイのような電子デバイス、基礎科学や臨床医学への応用といった光が関わる幅広いトピックスに触れることで、楽しみながら知識を増やして行くとともに、各種の光源、顕微鏡、3DプリンタやVRのような光に関わる最新技術までを網羅して学ぶことで、大学教育の基本である「知識を総合化する能力」を育てていきます。</p> <p>単に講義を聞くだけでなく、ネイルやパーソナルカラー診断といった簡単なグループワークを交えることで、三大学の学生が交流し、自分から一歩踏み込んで学ぶ姿勢を身につけていきます。</p>	<p>大学に入学した皆さんは、初めて自分の意志で自由に学ぶ権利を手に入れました。光と色彩という親しみやすいキーワードによって分野を跨いだ幅広い学びが可能になります。この講義では、単に知識を得るだけではなく、「科目の枠」でがんじがらめにされていた高校時代の勉強を抜け出し、生徒から学生に生まれ変わるための「大学の学び」の方法論を身につけていきます。それがこの講義の本当の目的です。したがって、内容自体は楽しいものですが、文化講座のように御気楽に聞き流せるようなものではありません。頭をフル回転させなければ話について行けないかなり厳しいものです。</p>	◎	◎		

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理 融合 科目	授業目的区分		
							A	B	C
京都の農林業	府	中村 貴子 ほか	後	わが国の農林業の概要とその中における京都の農林業の特徴とについて、リレー方式で概説する。 一千年以上もの間、都であった歴史的古都ゆえに、伝統的に蓄積されてきた技術と文化に基づく農林業と、新しい技術と生産方式の下で再編成される現代の農林業との2つの側面を明らかにして、長期的視点でわが国と京都の農林業を見つめ直すための教養を身につける講義である。	7人の教員が担当する授業であり、全体像を理解するためには、復習が必要である。 成績評価は、各教員による小テストと出席状況に基づき行われる。		○		
京都の防災と府民	機	田淵 敦士 ほか	後	地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害など、個人では対処できない被害の脅威にさらされている日本において、防災、減災、生活再建、地域復興などの被災がもたらす問題の解決は公共政策の重要な課題である。これらの防災関連の対応策は、ハードからソフトまでを含む幅広い領域にわたる。防災はまさに学際的な領域であり、この授業は、災害の歴史、木造文化財の耐震、防災地図情報、災害時の看護、災害対応政策などの多彩な内容で構成される。京都府は、由良川や淀川水系の河川氾濫、花折断層、山田断層など多くの活断層、あるいは福井県原発など、災害が府民にとって身近な問題であり、阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓がどのように生かされるかは重要である。この授業は、学際的な視点から自然災害の脅威とそれへの対応策を知る機会を学生に提供し、学生自らが考える契機となることを目標としている。	東日本大震災や能登半島地震の生々しい記憶は私達の心に深く刻み込まれていますし、南海トラフ地震の危険性も度々指摘されており、私達は心のどこかで大災害を意識してきたはずですが、しかし、時間の経過とともにその意識は薄れ、ともすれば、大災害が明日は我が身に降りかかってくる可能性があるということをお忘れがちなのではないでしょうか。この講義は、三大学教員をはじめとする色々な分野の専門家が、「防災」をキーワードに、いずれ襲ってくるであろう大災害の被害をいかに防ぎ、また減じることができようかを学び、また、一緒に考えていただくという趣旨で企画しました。学生時代だけではなく、皆さんの将来へ向けて、是非とも受講していただきたいと思います。		○		◎
京都の自然	府	平山 貴美子 ほか	前	京都府は、本州のほぼ中央に位置し、日本海から内陸にいたる細長い地域である。標高1000mを超えるような山は存在しないが、日本海に面する北部地域から丹波高地、そして古くから人との関わりが大きかった京都盆地、山城地域と多様な自然環境が見られる。本講義では、このような京都の自然環境について、地質学、土壌学、水文学の専門的観点から解説を加えるとともに、生息する野生動物の分布やその地史的・進化的背景、人間活動との関わりについて紹介する。	この講義で取り上げたテーマは、日々、京都の新聞やテレビなどでも関連する話題が扱われます。それらに注意して読んだり見たりするとより深く理解できます。また、皆さんの身近なところで起こっている自然の事象を扱います。この講義を通して、京都の自然とそれを取り巻く問題を身近なこととして捉え、考える機会としてほしいと思います。		○		

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文理 融合 科目	授業目的区分		
							A	B	C
製品の機能から科学を学ぶ (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	石田 昭人	前	身近な製品の機能を切り口として、その背景となる物理・化学・生物学的な重要事項を理解し、最先端科学に触れることで、知的好奇心とグループ活動能力を育成するゼミナール講義である。「硬い」、「光る」、「くっつく」、「伸びる」、「通す」、「分ける」、「吸い込む」といった機能を身近な製品や商品から探し出し、自らの手と頭を駆使して対象とする製品や素材の機能、その背景となる最先端科学について調査する。グループワークによる科学技術情報の収集と議論、発表の技法の修練を通して、受講者のポテンシャル向上はもちろん、三大学の学生が共に高め合う関係を創り上げていきたい。 文系理系学部学科を問わず、知識の獲得に対して強い快感を感じることができよう意欲的な学生の受講を期待する。2回生以上の受講も歓迎する。	メガネや保温マグカップは何で出来ている？と聞かれて「金属」、「プラスチック」しか出て来ないのでは？「ヒートテック」はどうしてあたたかいの？「縫合糸」、「人工靱帯」、「傷口にくっかないガーゼ」は何でできる？「光ファイバー」はどうやって光を運ぶ？「集材材」はどうやって作る？「水中コンクリート」ってどうして固まるの？「リチウムイオン電池」の中でリチウムはどうやって電気を起こしている？「mRNA」がなんでワクチンになるの？「DNAアプタマー」って抗体の代わりに？皆さんは答えられますか？素材の名前や性質、製品機能の原理を知っていれば安心安全安上がりな生活ができますし、最先端の科学技術に触れることができます。こんな面白いことを放っておく手はありません。さあ、一緒に知の世界を探索しましょう。	◎	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	文 理 融 合 科 目	授業目的区分		
							A	B	C
意外と知らない植物の世界 (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	松谷 茂 後藤 仁志 野口 祐子 浦川 宏 畔柳 加奈子 井戸 美里	後	植物を共通のテーマとして、専門分野の異なる複数の教員がリレー講義を行うことによって文理横断の内容を多角度から学ぶ科目である。 植物や植物園に関する知識、衣類の色と天然染料、動物と植物の関わりや違い、暮らしの道具にみる素材としての植物、プラントハンターを魅了した日本の植物、日本美術にみる植物表現等、各講義のテーマは多岐にわたる。 また、本講義では、京都府立植物園でのフィールドワークを6回、植物に関する制作活動を2回行うなど、実際に植物に触れ、観察する機会を多く設けている。実践的な授業の中で異分野の学生同士が交流することにより、新たな視点を獲得することを期待する。	[松谷]植物観察の秘訣は、不思議と謎を感じることに。『現場が教科書』、を実感しましょう。 薬効成分のある植物による「良薬口に苦し」の体験も。 [後藤]ヒトを含む動物と植物との関わりについて生物学的視点から学習します。講義中では特に、医学となじみの深い植物について紹介したいと思います。 [野口]身近にある植物にまつわる物語を知って、世界への扉をまたひとつ開こう。 [浦川] 1. 衣服を染める天然染料の多くは植物由来です。天然染料について知ろう。 2. 海藻と海草はちがうのか？ [井戸]古くから日本では植物を象る美術作品が多く作られてきました。そのような形象の制作背景を探っていきましょう。 [畔柳]人は身近な植物を素材として様々な道具を作ってきました。植物の特性や加工法を通じてものづくりについて考えてみましょう。(製作体験も予定)	◎	○	○	○
レーザーで測る、創る、楽しむ (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	播磨 弘	前	1950年代の発明以後、レーザーは著しい進歩を遂げ、社会生活に不可欠な基盤技術として確立した。ここではその歴史や動作原理を復習したあと、産業・日常生活の色々な分野でいまどのように活用されているか見てみよう、またその未来を予想してみよう。 ゼミ形式で授業を進める。受講生が自ら調査した結果をもとに、皆で対話しながら以下の例のようなテーマで楽しく学びあいたい：(1) レーザの基礎 … 原理と種類、開発競争。(2) 情報を記録する、送る … 光通信、DVD、スキャナ。(3) レーザで芸術 … ディスプレイ、仮想現実。(4) レーザで工作 … 3Dプリンタ、レーザー加工。(5) レーザで測る … ドローン計測、スマホ認証、3D観測、天体・地球観測。(6) レーザと医療 … 手術、医療、美容。ウイルス滅菌。(7) 究極応用とは？ … 核融合、レーザー冷却、レーザー兵器。(8) レーザにかける夢。	レーザーは発明以来、比較的浅い歴史にもかかわらず我々の日常生活の幅広い分野に深く入りこんできている重要な基盤技術です。この授業では毎回テーマを具体的に絞って、文系・理系を問わず、どの分野の受講生でも、自ら調査して討論に主体的に参加できるような分かりやすく楽しい双方向の授業をめざします。	○	○		○
人と自然と数学β (リベラルアーツ・ゼミナール)	工	磯崎 泰樹	後	ランダムな現象が社会生活のいろいろな側面に影響することを学ぶ。ここでの社会生活とは、消費者とし、患者として、投資家としての生活などがあげられる。確率論、数理統計学、疫学、心理学、金融理論などから多くの例を考慮する。講義の目標としては次があげられる。1 統計でウソをつく人に騙されない消費者になる 2 主治医が副作用発生率について教えてくれるときに、適切な質問をすることで、誤解を防げる患者になる 3 金融リスクを正しく把握し、投資すべきでない金融商品を知る	ランダムな現象に対しては、日々社会に誤解が生じています。その誤解を悪用して合法的な金儲けを企む人がいて、ときとして消費者は、買わなくても暮らせるはずの商品にお金を払っています。本科目をきっかけにして、皆さんが、だまされそうになりながら踏みとどまれる消費者になれば、私にとっても望外の喜びです。				○